

旧小樽支店金融資料館

来館者数が

一五〇万人を突破！

▼日本銀行の歴史や業務、また小樽の歴史などを紹介する広報施設である旧小樽支店金融資料館は、北海道命名から一五〇年の二〇一八年、開館一五周年を迎えました。

▼「一五〇」年、「一五」周年と続き、去る二〇一八年十月十六日には当資料館開館以来「一五〇」万人目のお客様をお迎えすることができました。



小高館長から認定証と記念品を贈呈

▼一五〇万人目のお客様は、

オーストラリアから旅行で来館された早坂さんご夫妻。金融資料館館長の小高咲札幌支店長から認定証と記念品を贈呈しました。お客様はとても驚いた様子で、「ちょうど通りかかったので立ち寄りしました。偶然一五〇万人目の来館者とのこと幸運です。これからお金に縁があるのかな？」との感想を述べられました。

▼金融資料館では、今後もご来館いただいたお客様に親しんで



認定証を手に記念撮影



金融資料館

いただける展示を企画していきたいと考えております。

小樽にお越しの際には、ぜひ、金融資料館へお立ち寄りください。多くの方々のご来館をお待ちしております。

旧小樽支店金融資料館では特別展を開催中

二〇一九年一月二十日(火)まで

▼旧小樽支店金融資料館では北海道一五〇年特別展として「開拓使兌換証券と『円』の誕生」

を開催しています。

▼北海道はかつて「蝦夷地」と呼ばれていましたが、一八六九(明治二年)に太政官布告によって「北海道」と命名されました。二〇一八年は、命名から一五〇年目を迎えます。

明治政府は、一八六九年七月に蝦夷地の開拓をつかさどる開拓使を設置しました。また、さまざまな制度を整える中で、貨幣制度の整備も進めていきました。

まず一八七一(明治四)年に新貨条例を制定して全国統一の新しい貨幣単位「円」を導入し、政府紙幣「大蔵省兌換証券」を発行したのに続いて、翌年一月には、開拓使の経費を補うため「開拓使兌換証券」を発行しました。しかし、偽造が多発したことから、同年新たな政府紙幣が発行され、間もなく開拓使兌換証券は通用停止となりました。その後、一八八五(明治十八)年に最初の日本銀行券が

150 北海道 150年 特別展

開拓使兌換証券と「円」の誕生

2018年10月26日(金)～2019年1月22日(火)

休館日 水曜日・年末年始(12月29日～1月5日)

開館時間 4月11月 9時30分から17時(入館は16時30分まで)
12月3月 10時から17時(入館は16時30分まで)

入館無料

※最新の情報はホームページをご確認ください。

日本銀行目小樽支店 金融資料館
The Bank of Japan Otaru Museum
〒047-0031 北海道小樽市色内1-11-16 TEL 0134-21-1111

開拓使兌換証券



発行され、紙幣は次第に日本銀行券に一元化されていきます。
▼今回の特別展では明治初期の紙幣や開拓使兌換証券を通し

て、「円」の誕生およびその変遷についてご紹介しています。また、日本銀行本店の創業時の建物として使われた開拓使出張所(「開拓

所」開拓使物産売捌所)についても、日本銀行との関わりを交えてご紹介

しています。皆さまのご来館をお待ちしております。

【入館料】無料

【休館日】

水曜日、年末年始(二〇一八年十二月二十九日(土)～二〇一九年一月五日(土))

【開館時間】午前10時～午後5時

※最新の情報は金融資料館ホームページをご覧ください。

【所在地】

北海道小樽市

色内1-11-16

一六

【お問い合わせ先】

金融資料館

〇三三四一一二

一一一一一

<http://www3.boj.or.jp/otaru-m/>



「プラチナくるみん」認定を取得しました！

▼日本銀行は、八月三十一日、次世代育成支援対策推進法(次世代法)に基づく優良な子育てサポート企業として「プラチナくるみん」の認定を受けました。
▼「プラチナくるみん」認定は、次世代法に基づく子育てサポート企業として「くるみん」認定を受けた企業のうち、男性労働者の育児休業取得、長時間労働の抑制、多様な労働条件の整備、出産した女性労働者の継続就業等の項目について、より厳しい

編集後記

■早いものでもう年の瀬、皆さまにとって、今年はどうな一年でしたか。私の記憶の中では、これほど自然災害が頻発した年はありません。犠牲となられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞い申し上げます。一連の出来事に際し、電力や道路などの生活インフラ整備、企業の業務継続への取り組み、家庭での災害への備えの重要性を改めて思い知らされました。

改めてという意味において、今回、本誌を企画、編集してふと気付いたのですが、これほど多岐にわたる記事を同時に掲載している企業広報誌は、なかなか見当たらないのではないのでしょうか。今号では、日本銀行のレポートや中央銀行の紹介に加え、健康やアジアに関するインタビュー・対談のほか、明治維新胎動の地である山口県萩市における地域活性化、フランスの母国語事情などを取り上げています。前号も、それ以前のバックナンバーにも情報が満載です。それだけ毎回の企画に頭を悩ませていますが、皆さまに「幕の内弁当のお得感」を楽しんでいただければ幸いです。(中川)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2018年冬号
編集・発行人 中川 忍
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

「プラチナくるみん」マーク



基準を満たした企業が、厚生労働大臣により受けられるものです。

▼「プラチナくるみん」マークは、マントと王冠をつけ、「くるみん」マーク取得企業よりも

両立支援の取り組みが進んでいることを表現しています(厚生労働省「両立支援のひろば」より)。マントの色は、十二色(ピンク色、だい色、黄色、緑色、青色、紫色、または、これらの色を淡くした色)の中から選択することが可能です。日本銀行では、広く親しまれている桜の花の色をイメージし、淡いピンク色にしました。

▼日本銀行は、これまでも、仕

事と子育て等の両立に資する制度を拡充するとともに、ダイバーシティ推進に向けた職員の意識啓発に努めてきました。

▼今後とも、すべての職員が能力を十分に発揮できる環境整備に取り組みでまいります。

<http://www.boj.or.jp/about/diversity/index.htm/>

